

8 南薩地域の水田営農確立とニーズに応じた水稲の生産拡大

成果の要約

- 1 「なつほのか」「くいつき」について現地検討会等で普及推進を図り、面積は前年より増加した。灌漑型のウンカ対策の実証を行い、省力的な防除体系として有効性を確認した。
- 2 九州では難しい直播水稲は乾田・湛水と同時期に実証し、規模拡大の進む担い手農家の省力化のための選択肢として提案し、生産者は来年産の本格導入へと進んだ。
- 3 普通期水稲の高温登熟性に優れる新品種「あきの舞」は収量が良く、普及への足がかりとなった。
- 4 麦・そば・大豆は各品目の課題を踏まえ、関係機関と連携して、重点的な指導を実施した。大豆はツククサやアサガオ等の難防除雑草の対策実証を行い、対策を実施した生産者は収量が向上した。

1 対象

- (1) 各市の水稲部会
(JA 南さつま, JA さつま日置, JA いぶすき)
- (2) 川辺地域集落営農組織連絡会 9 組織
- (3) 水稲・大豆・麦・そば生産者

2 課題を取り上げた理由

- (1) 高温登熟耐性を持つ「なつほのか」は、近年の登熟期間の高温に対応しており、品質が優れるため、品種の切り替えが必要である。飼料用米は、食用品種を作付すると、毎年交付金が令和 8 年まで下がるため、専用品種に切り替えていく必要がある。
- (2) 高齢化により、担い手に土地が集約されていく中、規模拡大に対応するために、水稲直播により、省力化を図る必要がある。
- (3) 温暖化が進み、「ヒノヒカリ」の品質の低下が起こっているため、高温登熟性の新品種「あきの舞」による対策が必要である。
- (4) 水田の麦そば大豆の収量の安定性が必要である。

3 活動の内容及び成果

- (1) 多収品種の生産強化支援
5 月、7 月の高温登熟性の多収品種「なつほのか」の実証を活用した現地検討会(写真 1)を実施。品種の特長、水管理等を指導し、いもち病の本田防除を推進した。
「なつほのか」のウンカ対策は、省力的な灌漑タイプの新剤と従来からある粒タイプの箱剤の比較を実証。1 灌漑タイプは散布時間を 1/4 に短縮し、省力化に繋がった。ウンカに対する防除効果も同等で、生産者の興味関心が高い様子であった。



写真1 「なつほのか」現地検討会

飼料用専用品種の「くいつき」の生育調査ほ場を設置して、市や JA と共同調査した。「くいつき」は初めて栽培する生産者も多く、現地検討会(写真 2)では、生育についての質問も挙がった。品種特性や交付金制度の変更の周知を行った。



写真2 「くいつき」現地検討会

- (2) 早期水稲における直播栽培への取組
担い手農家の早期水稲栽培における省力化技術対策として、金峰町大野で乾田直播、知覧町厚地で湛水直播を実施(写真 3, 4)。
直播の課題であった雑草問題を適期の体系防除により抑制できた。



写真3 令和6年8月1日乾田直播ほ場



写真4 湛水直播現地検討会

乾田直播の単収は移植対比 8割に留まったが、労働時間は 75% (4.14 時間) 低減、コストは 65%低減された (表1)。現地検討会では、直播は雑草が多いというイメージが覆されたという意見が挙げられた。

表1 乾田直播コスト 単位：円

費用	移植水稻	直播水稻
育苗費	5,390	2,112
減価償却費	7,150	2,934
労働費	6,660	1,692
生産費	19,200	6,738

湛水直播の実証農家は当初不安だったが、雑草の適期管理により移植と遜色ない収量を確保し挑戦して良かったとのこと。来年産は面積拡大するため、ドローン直播を導入して取り組む。

(3) 普通期水稻の生産維持支援

近年の温暖化に対応した新品種「あきの舞」を川辺町古殿で実証した (写真5)。

精玄米重は 585kg/10a と対照区の「ヒノヒカリ」対比 182%と多収であった (坪刈り結果)。出穂後高温が続いたが、「あきの舞」の高温登熟性が収量に繋がったと考えられた。

試食会を実施し、「あきの舞」は美味しい、単収を伸ばしたい等の意見があり、作付意欲が高まった。



写真5 「あきの舞」現地実証

(4) 水田における麦そば大豆産地の維持拡大
令和6年産は暖冬により2週間早く出穂し、各種病害が蔓延したため、7年産に向け各市と連携し、金峰町、大浦町、川辺町で啓発を強化した。生産者は pH 矯正の土づくり、排水対策、土壌処理型の除草の実施、赤かび対策の準備を実施した。

そばは、各市と連携して研修会を実施し、9月前半の播種と排水対策、適期収穫を啓発した。

大豆は、難防除雑草のカロライナツユクサや帰化アサガオが蔓延し、収量が毎年減少しているため、本年は除草の体系防除を実証した (表2 (注) () の数値は最も長い植物長)

表2 大豆の残草調査結果

区名	生重量	アサガオ本数	ツユクサ本数
実証1 A剤, B剤	277.6g	0本	17本(94.8cm)
実証2 A剤, C剤	687.8g	2本(133.6cm)	43本(77.8cm)
実証3 A剤単体	2124g	0本	116本(163.4cm)
実証4 A剤, D剤	4.92g	89本(8cm)	0本

雑草対策を実施した生産者組織は単収も前年の2倍に増加した。川辺町では実証結果を基に除草体系の改良を図っていく。

4 今後の課題

- (1) 多収品種の生産強化支援
「なつほのか」「くいつき」の普及推進。
「なつほのか」再生2期作への取組。
- (2) 早期水稻における直播栽培への取組
令和7年産はさらに普及面積拡大見込み。地域の実情に応じた直播方式を支援。
- (3) 普通期水稻の生産維持支援
「あきの舞」の普及推進。
- (4) 水田における麦そば大豆産地の維持拡大
麦：赤かび病防除。
そば：適期播種、排水対策、害虫対策。
大豆：雑草対策。多収な新品種「そらみのり」の栽培が始まる。特性把握と管理指導。

5 担当した普及職員 (○はチーフ)

○橋口、木村、基山、内門